

令和3年11月教育委員会定例会 会議録

令和3年(2021)11月12日(金)午後2時00分、出雲市教育委員会定例会を出雲市役所6階全員協議会室に招集した。

1 会議に出席した委員

教育長	杉谷 学
教育委員(教育長職務代理)	錦田剛志
教育委員	金築千晴
教育委員	内藤祐馬
教育委員	伊藤恵美

2 説明のため会議に出席した者

副教育長	三島武司
教育部次長	松浦和之
教育部(子ども未来部)次長	金築健志
教育政策課長	常松博雄
学校教育課長	福間耕治
児童生徒支援課長	兒玉浩二
教育施設課長	園山裕二
学校給食課長	石橋健治
出雲科学館長	鬼村修治
学校教育課課長補佐	岩崎慎一
児童生徒支援課課長補佐	吾郷尚志

3 会議の書記

教育政策課課長補佐	池尻精二
-----------	------

4 傍聴者

0名

開会

(杉谷教育長) 只今から、令和3年11月出雲市教育委員会定例会を開会します。本日の会議は、お手元に配付しております日程のとおり行います。

1 感謝状の贈呈

(杉谷教育長) まず始めに、出雲市教育委員会感謝状の贈呈を行います。教育政策課

常松課長 に進行をお願いします。

(常松教育政策課長) 本日、感謝状を贈呈する方は、稗原小学校に関して 飯塚 たか子さま、塩冶小学校に関して 井田 潤子さま、那須 雅美さま、若山 富美子さま、山崎 尚代さま、斐川東中学校に関して株式会社 フクダさまでございます。

贈呈の前に、ご功績につきまして、ご紹介申し上げます。

(ご功績の紹介)

先般開催されました出雲市教育委員会において、出雲市教育委員会感謝状贈呈要綱第5条の規定により感謝状贈呈が決定されましたので、本日、教育委員会感謝状を贈呈するものです。

(杉谷教育長、感謝状と記念品を贈呈)

(井田 潤子さま、那須 雅美さま、若山 富美子さま、株式会社フクダさま あいさつ)

(常松教育政策課長) 以上をもちまして、出雲市教育委員会感謝状の贈呈を終了します。

2 教育長行政報告

(杉谷教育長) それでは、「教育長行政報告」を行います。

(以下、報告項目のみ掲載)

1 前回以降の動向

R3.10.22	幼稚園長会、PTA連合会要望・まちづくりミーティング(佐田)
R3.10.24	隣保館まつり
R3.10.26	校長会予算要望説明会・人事評価審査会
R3.10.28	第6回教育政策審議会・まちづくりミーティング(今市)
R3.10.29	出雲市議会全員協議会・管内教育長会、研修会(奥出雲町)
R3.11. 2	出雲市教育研究大会(中部Bブロック大会)
R3.11. 4	校長の会議・まちづくりミーティング(川跡)
R3.11. 9	市長面会対応(ことばを育てる親の会)
R3.11.10	タッチペン、租税教育資料寄贈(出雲法人会、出雲間税会)
R3.11.12	定例教育委員の会議

2 今後の予定

R3.11.13	西野小学校50周年記念式典(教育委員会感謝状贈呈)
R3.11.14	新潟県三条市視察対応(出雲科学館)
R3.11.15	第1回県学力育成会議(出雲合庁)
R3.11.17	野津県教育長、藤原松江市教育長視察対応(出雲科学館)
R3.11.18	全国市町村教育委員会オンライン協議会
R3.11.19	永年勤続表彰式・まちづくりミーティング(大津)
R3.11.20	幼稚園教育振興大会(アクティひかわ)
R3.11.21	市青少年育成大会

R3.11.22	定例記者会見
R3.11.24	出雲市奨学事業運営委員会
R3.11.30	出雲市議会 12 月定例会開会 ・ 全員協議会
R3.12. 3	出雲市議会 12 月定例会一般質問(～8日)
R3.12. 8	出雲市議会 12 月定例会予算委員会
R3.12.10	出雲市議会 12 月定例会文教厚生委員会
R3.12.13	全国市町村教育委員会オンライン協議会
R3.12.15	地域学校運営理事長会 ・ 校長の会議
R3.12.20	出雲市議会 12 月定例会閉会 ・ 全員協議会
R3.12.21	定例教育委員の会議 ・ 第2回総合教育会議

(杉谷教育長) 以上の報告について、何か質問等はありませんか。

(各教育委員) ありません。

3 会議録の承認

(杉谷教育長) 次に、会議録の承認に入ります。前回10月定例会の会議録について、何か意見等がありますでしょうか。

(各教育委員) ありません。

(杉谷教育長) 特に意見等ありませんので、10月定例会の会議録については、承認します。

4 報告

(杉谷教育長) 本日議事は、ございませんので、「報告事項」に入ります。報告(1)「学校給食費の公会計化の開始時期について」を、学校給食課 石橋課長 に説明願います。

(石橋学校給食課長) 資料をもとに説明

(杉谷教育長) 只今の、報告(1)「学校給食費の公会計化の開始時期について」について、何か質問等はありませんか。

(各教育委員) ありません。

(杉谷教育長) 次にまいります。報告(2)「10月臨時市議会への提出案件について①補正予算案件」を、教育政策課 常松課長、教育施設課 園山課長 にそれぞれ説明願います。

(常松教育課長・園山教育施設課長) 資料をもとに説明

(杉谷教育長) 只今の、説明について、何か質問等はありませんか。内藤委員。

(内藤教育委員) 新型コロナウイルス感染症対策のための補助金となっていますが、来年から違うフェーズというか違う状況になってくると思います。その中でもマスクとか消毒液を買っていかないといけない中で、それがどういう取扱いになるのか。国じゃないとわからないと思いますが、わかった時点で教えていただきたい。

(杉谷教育長) 常松課長。

(常松教育政策課長) 来年度の補助金については、詳しいものは出されていません。マスク等については、自分で買うというのが基本です。アルコール消毒液とか引き続き必要になると思いますが、状況を見て判断したいと考えています。また、何かあればお知らせしたいと考えています。

(杉谷教育長) 他にございませんでしょうか。錦田委員。

(錦田教育委員) 閉校した施設の活用、今回、旧佐香小、旧日御碕小が被災したわけですが、今後の閉校した施設の活用の見通しということ。何か市の方で中長期的な目標というものがあるのでしょうか。いつまで旧校舎を管理していくのかという素朴な疑問があります。うまく活用されて、地域で生かされていけばよいでしょうし、災害時の避難場所として活用されればいいでしょう。そうは言っても、老朽化し、経年劣化は避けられないだろうなど。今後の活用の見通し等があれば教えていただきたい。

(杉谷教育長) 園山課長。

(園山教育施設課長) 閉校している施設について、教育施設課が所管しているのは11の施設があります。閉校した場合においては、まず、地元の意見を伺って活用方法を検討していきます。地元の方で活用されるものもあるでしょうし、ないものに関しては民間の活用を検討します。財政部が所管をして活用に関する公募等を行っています。現在活用されているものは、例えば、旧乙立小、幼稚園については児童クラブで活用しています。民間の利用では、今年度の7月から旧光中学校を昭和開発工業が使用しています。日御碕小学校は、サテライトオフィスとして活用が予定されており、現在進められています。今年度のところで開始をするということです。出東幼稚園については、今年度のところで解体をします。残りの7つについては、有効活用できるものもあるでしょうし、しないということであれば、財政部局と調整しながら、今後対応していきます。

(杉谷教育長) よろしいでしょうか。

(錦田教育委員) わかりました。

(杉谷教育長) 他にいかがでしょうか。報告(3)「第4期出雲市教育振興計画の策定状況について」、概要について教育政策課 常松課長から、個別事項について、各担当課からそれぞれ説明願います。

(常松教育政策課長・福間学校教育課長・兒玉児童生徒支援課長) 資料をもとに説明

(杉谷教育長) 一度に説明のうえに、ページが飛び飛びでわかりにくかった点もあるかと思えます。第4期の振興計画のつくり、あるいは項目の記載内容について、何かご質問ありませんか。どなたからでも結構ですので、ご発言いただきたいと思えます。内藤委員。

(内藤教育委員) SDGsのところなのですが、どのように作っていかれるのか。非常に、現段階で謎です。17の目標があげられていて、そのすべてをやっていくなかなか合わないことになってくると思えます。それぞれ、出雲市が何を目指していくのかという中で、項目のどれかを選んで、その項目を当てはめて出雲市の目標に向かっていくというやり方だと思います。これを見ている限り、何もありませんが、SDGsと謳われているだけなのではないでしょうか。なかなか、これ壁が高いと思えます。これが、そのスケジュール感でできるのでしょうか。

(杉谷教育長) 常松課長。

(常松教育政策課長) 今回資料をつけていませんが、第3期との比較の新旧対照表があります。その中で、全17項目を網羅しているわけではないですが、一つの項目ごとにSDGsのマークを当てはめて、案として作成しています。目標4の「質の高い教育をみんなに」がほぼ当てはまってしまいます。しかし、そればかりでなく、ジェンダーなどいろいろな項目がありますので、この項目はSDGsのどの項目に当てはまるかが分かるようなものを検討していきたいと考えています。

(杉谷教育長) 内藤委員。

(内藤教育委員) この項目に向かって、出雲市としての目標を立てていかれるということでしょうか。

(杉谷教育長) 三島副教育長。

(三島副教育長) 策定に際して新旧対照表を作成しています。それを見ながら説明させていただくとわかりやすいと思えます。この項目についてはSDGsのどの項目が一番関

連深いか、どの項目を目指さなければいけないのか。それをこの中で表現していくことを考えています。

(杉谷教育長) どうぞ。

(金築教育委員) ヤングケアラーですが、出雲市として把握していますか。何パーセントくらいの子どもたちがこういう状況だとか。

(杉谷教育長) 兒玉児童生徒支援課長。

(兒玉児童生徒支援課長) 出雲市として、ヤングケアラーの部分については、そういった調査は行っていません。学校からの教育委員会への相談についてもヤングケアラーに関する相談は、今年度ありません。

(杉谷教育長) 金築教育委員。

(金築教育委員) 今後、発生するかもしれないということでしょうか。

(杉谷教育長) 兒玉児童生徒支援課長。

(兒玉児童生徒支援課長) 今後、発生するかもしれません。さきほど申しあげましたように、ヤングケアラーの問題については、なかなか学校で解決することは難しい問題ばかりであろうと考えています。福祉関係の部署になると思いますが、関係機関と情報連携を行い、その家庭の支援ですとか、子どもの支援をしていきたいと考えています。

(杉谷教育長) 金築教育委員。

(金築教育委員) そもそも、こういう計画書は、保護者が見る機会があるのでしょうか。

(杉谷教育長) 常松教育政策課長。

(常松教育政策課長) 4月にパブリックコメントを行う際に、全体の計画を載せて、意見を求めます。第3期の計画も保護者に全員くばっているということはありません。何かお示しする方法を考えていかなければいけないと考えています。ホームページ等に掲載していますが、見ている方は少ないと思います。

(杉谷教育長) 金築教育委員。

(金築教育委員) パブリックコメントを求めるにしても、告知方法をこういうことをやっていますと、お便りとかを出されるわけではないと思うので、新聞読んだり、市のホームペ

ージで知るくらいなのかなと思います。実際は、もっとたくさんの保護者さんに見てもらったり、いろんな意見をもらった方が充実するのかなと思います。

(杉谷教育長) 常松教育政策課長。

(常松教育政策課長) パブリックコメントをするときにそういった工夫を考えたいと思います。

(杉谷教育長) 追加資料が配布されました。説明をお願いします。

(常松教育政策課長) 今回の計画のところで、SDGsということで、最終の精査が済んでいるわけではないですが、17項目のうちのどれに該当するか、それぞれロゴマークを入れさせてもらっています。現在の計画は文字ばかりですので、その中に組み込むといったことを考えています。

(杉谷教育長) 三島副教育長。

(三島副教育長) 金築教育委員から質問がありましたヤングケアラーの件ですが、ここでの文脈は児童虐待、貧困、それからヤングケアラーとなっています。児童虐待と貧困については、特に児童虐待については、福祉、警察と連携をしてということになります。ヤングケアラーについては、言葉をきれいに言えば、家族同士の助け合い、子どもたちから見れば、自分が家族の役に立っていると、必要とされているという自己有用感といったそういったものを育てていく一つの行為となります。虐待などと一緒には扱えないものです。この部分については、福祉と警察と連携して直ちにやめさせるといったものではないです。その辺りは、教育的配慮が必要になるものだと考えています。家族のお世話をやめなさいという指導を学校がするかというと何事も程度の問題で、その子の成長や生活に支障があれば、福祉なりと相談して解決に向かわなければいけないと考えています。違う種類のものが並んでいますので、そういったことを考えております。ヤングケアラーの数を把握するというよりも、ヤングケアラーとして困っている子、生活が非常に窮屈になっている子を触れるようになって考えています。数を把握するということは、現時点で考えておりません。

(杉谷教育長) 今日の新聞で、鳥取県が実態調査をして小学校が1.8%、中学校が2.0%という数値が出ていました。数字は出ているのですが、副教育長の話にもありましたとおり、回答している子どもがまちまちだと思います。お世話をしているからヤングケアラーだということでは、この問題に向き合えないと感じています。実態把握することについて、内容が難しいと思います。学校での子どもたちの様子から見ていくと言うことになると思います。現在、言葉として課題とされている部分です。審議会の委員からも指摘があったところで、盛り込んだというところです。内藤委員いかがですか。

(内藤教育委員) ここまでの資料の量だと思いませんでした。今は、なんとも言いようがないところです。見させていただいて、内容を把握させていただきたいです。「生きる力」の育成のところで、ふるさとキャリア教育の重要性がここ数年言い続けられてきています。地域に偏りすぎていけないと思っています。例えば、ICT を使えば大きな企業の見学とか内容とか見れます。そして、それが子どもたちの夢にも繋がる場所があると思います。これだけを打ち出してしまうと、振り切れ過ぎていて、子どもたちにも地域に帰って来てもらいたいものだけでも、バランスが悪いのかなと思ったりもします。地域から世界に飛び出すような子どもたちも出てきてもらいたいと思います。そういう一文がどこかに入れればいいと思います。世界に向けた子どもたちの育成ということでも、出雲市が頑張っていければいいかなというのが、私の意見です。

(杉谷教育長) 福間学校教育課長。

(福間学校教育課長) 国際的に活躍する人材に出てほしいということでは、12ページの④のグローバル人材の育成のところで、そうした意味も含めて掲げさせていただいています。出雲を離れ、国際的に活躍する人材も出てほしいというのもあります。一方で、この人口減少社会の中で、ふるさとに帰って来ていただきたいというのもあります。こうしたふるさと教育を進めているところではありますが、先ほどのグローバル人材の育成というところでは、国際的に活躍するということも大事なんだけれども、広い視野を持って、多様な価値観をもって、外国人とも付き合える、理解できるというところの心の教育も勧めていきたいということでも盛り込んでいます。

(杉谷教育長) 内藤委員。

(内藤教育委員) 私が言いたかったのは、世界もそうですが、日本中も ICT で身近になったということが言えると思っています。それを活用して、子どもたちの意識を高めていただきたいと思っています。

(杉谷教育長) 福間学校教育課長。

(福間学校教育課長) ICT 教育にも触れさせていただきましたが、委員のご意見のように、日本中の方と繋がれる環境になっていますので、ふるさとキャリア教育だとか、各種講演とか、学習に ICT の活用を十分進めて行きたいと考えています。

(杉谷教育長) 錦田委員。

(錦田教育委員) さまざまな問題をきちんと整理されていて、内容が非常に濃いものだと思います。一つ気になったところは、教育振興計画のところで、家庭教育の重要性というものについて、どこまで踏み込むべきなのか。当然検討なさってはいると思います。地域という言葉はかなり出てくるのですが、家庭の問題、例えば8ページの地域における

教育力の向上、私は踏み込んだ方がいいと思って意見をしているのですが、家庭と地域における教育力の向上ということで、やはり、教育の基本は、家庭だと私は考えています。その辺りをもう少し強調すべきかと。16ページに基本的な生活習慣の確立というところがありますが、「生活習慣に係る各種データを活用し、保護者の理解を求め、家庭でのルール作りを促します。」この部分は、家庭が根本ではないのかなど。家庭の責任とか、家庭教育の保護者としての自覚と責任みたいなものが、もう少し、家庭教育を強調してもいいと感じました。そのほかの部分については、非常に良くまとまっていると思います。特に注がそのページの下についているのが読みやすいです。多くの保護者の方に見てもらいたいと感じました。

(杉谷教育長) 三島副教育長。

(三島副教育長) 家庭教育について、あまり記載がない点については、私も認識しておりました。これは、出雲市の教育振興計画で行政計画の一つです。行政が市民の方に何を約束するかというものです。家庭の教育に踏み込んで、行政が何かをするということは非常に書きづらいものです。しかしながら、学校だけの教育で、子どもたちがきちんと成長するのかという点、錦田委員がおっしゃる通りです。その言葉を入れることについては、少し検討をさせていただきたいと思います。

(杉谷教育長) 福間学校教育課長。

(福間学校教育課長) さきほど、三島副教育長が述べたとおりですが、12ページの③学習習慣の定着というところで、そうした生活習慣づくりを含め、記載しています。学力育成と相関関係のある学習習慣・生活習慣について、家庭及び地域への働きかけを強化していくということを記載しています。強調することができるかどうかを含めて、少し検討します。

(杉谷教育長) 伊藤委員。

(伊藤教育委員) 錦田委員がおっしゃったとおり、親の教育への関りについては大事だと思います。これは、出雲市の教育計画なので、これでよいと思います。以前、お聞きした親学プログラムについては、来られる保護者さんはよい保護者さんだと聞いたのですが、それでは意味がないと思います。本当に伝えたい保護者の方に、どうしたら伝わるのか。難しいことかもしれないですが、いろいろな方面から保護者と先生だったり、教育委員会だったり、意見交換ができるような場があったらいいなと思います。この計画に対しても、保護者が意見を言えるような環境があったらよいと思います。第3期から第4期への出雲市教育振興計画は新しくなっていくと思うのですが、私たち親は成長していないというか、自分たちが受けた教育を子どもにそのまま伝えるということになっています。時代の流れを私たち親がもう少し、感じて、行動を起こしていけないといけないなと思うので、その部分をもう少し進めていけるようなものがあっていいなと感じました。

(杉谷教育長) 常松教育政策課長。

(常松教育政策課長) 親学プログラムについて、そういったところのつながりを早い段階でできて、親同士が学んでいければよいと考えています。数少ない家庭教育に対する事業の一部です。合わせて、現在、社会教育計画の見直しをしているところです。そのテーマとしては、人づくり、つながりづくり、地域づくりと言ったところです。その柱として二つ掲げています。地域課題に向き合う人を作る、子どもを核として人とのつながりを作る。具体的な事業を落とし込めるかどうかは難しいと考えていますが、子どもを中心とした出掛ける場、子どもが出掛ければ、そこへ親が来る、そういったところでのつながりづくりで、お互い学び合うというようなことができないかと。現在、そういった観点で社会教育計画を見直しています。有効なものが直ぐには出せませんが、そういったことをコーディネートする人材を育成して、広がりができればよいと考えています。

(杉谷教育長) 今回は、教育振興計画をご覧いただいています。教育と呼ばれる分野で学校と社会の大きな教育の場があるとすると、現在、両方を同時に進めている状況です。頂いた意見を踏まえて、よりよいものにしていこうと考えています。残りました、教育施設課、学校給食課、出雲科学館、保育幼稚園課について、引き続き説明願います。

(園山教育施設課長・石橋学校給食課長・鬼村出雲科学館館長・金築子ども未来部次長) 資料をもとに説明

(杉谷教育長) 残りの部分について、説明を行いました。何か、質問等ございますでしょうか。

(錦田委員) 14ページの③のところにある5歳児の「アプローチカリキュラム」、小学校1年生の「スタートカリキュラム」のカギ括弧の言葉については、文部科学省が定めている名称でしょうか。

(杉谷教育長) 金築次長。

(金築子ども未来部次長) これは、13ページの⑦の保幼少中連携の推進に係る部分です。出雲市は、結構早くから保幼少連携推進計画を立てて、小1プロブレムを滑らかに接続させていく中で、その計画で保育所や幼稚園の5歳児の保育・教育において、アプローチカリキュラムを全園でつくることにしています。これは、出雲市独自の取組です。小学校においては、1学期のスタートの頃には、スタートカリキュラムを作っています。アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムがつながって、滑らかな接続としています。保幼少連携推進計画の中で、そのカリキュラムの作り方などを載せています。それらのカリキュラムのことになります。

(杉谷教育長) 錦田委員。

(錦田教育委員) ぱっと見たときに、少しわかりにくいかもしれません。注釈があってもいいかと思います。教育委員会の方には、分かるかもしれませんが、一般の方が見たときにわかりにくいと思います。注釈が何かで補足していただけたらと思います。

(杉谷教育長) 金築次長。

(金築子ども未来部次長) 注釈をいれるなり、工夫を検討させていただきます。

(杉谷教育長) 他にいかがでしょうか。特に質疑等がないようですので、報告事項は終了いたします。いただいた意見は検討材料として、反映できるところはさせていただきたいと思います。次に、その他に入ります。教育委員会の後援について、教育政策課常松課長 に説明願います。

(常松教育政策課長) 資料を基に説明

(杉谷教育長) 後援についてはよろしいでしょうか。

(各教育委員) なし

(杉谷教育長) 次期教育委員会の日程ですが、12月21日(火)午後2時から、3階大会議室にて開催させていただきたいと思います。定例会の後に午後3時から総合教育会議を開催させていただきます。よろしくお願いいたします。以上をもちまして、11月定例教育委員会を閉会いたします。

開会

(常松教育政策課長) 皆さま、ご起立願います。一同 礼。

【閉会】 (午後3時51分)